

2016年冬の牛臥会への連絡で、14期の飯沼清様から寄せられた思い出話と、『黒潮47号』に寄せられた29年卒の小林紳也先輩の「水とのたわむれ」(全文)を47号の「追補」として以下掲載します。(『黒潮』には誤って前半部分のみを投稿されたとの事なので)

無題

昭和三十九年卒 飯沼清

もう少し丁寧な文章にすればよいのですが、最近根気がなくなりつつあります。先にお送りいただいた『黒潮』に文章を載せられている皆さんの文才の豊かさを目に見ると、赤面の至りで身の縮まる思いです。

牛臥寮と私との縁を話しましょう。

私は、牛臥寮にわずかなかわりを持っています。つまらぬことですが、わたしには大切な、懐かしい思い出です。

ごく最近の出来事。大学同期の7人で伊豆下田へ2泊した。

伊豆といえば、高校2～3年への春休み、同期の今井昌喜と伊豆半島を縦断した。何を目的としたのか、何が動機だったか、『伊豆の踊子』にロマンを空想したのか、なにも覚えていない。沼津から大瀬崎へ航路～それから陸路、戸田～土肥～天城峠へ、天城山中を野宿・放浪し、イノシシ狩りの猟犬に包囲されいろいろなことがあったが、とにかく徒歩で下田までたどり着いた。石廊崎へ足を伸ばしたか？覚えていない。

半世紀以上前の伊豆には、西海岸を南北に通る道路はなかったが、このたびは下田～西海岸・堂ヶ島～土肥～浄蓮の』尾滝～天城峠～下田をアツという間に周回。半世紀という時間がどんなものかを実感する。

牛臥といえば、3年の夏、牛臥寮での夏の臨海教室だか？が復活、実施された。覚えている方は少ないだろう。同期では、高橋が参加した。

3年の冬、いよいよ追い込まれた私は、年末の1週間ばかりを牛臥寮に一人籠った。一番こころに残っているのは、寮から御用邸へと続く松原を朝晩散策したこと。進路指導の三者懇談(なぜか私は欠席している)で、担任の喜多さんからおふくろは言われたそう。「まず、無理だから、一浪でもするつもりで」と、『とんでもない。諸般の事情と、わたしの計画では、そんなわけにはいかないのだ。』そんなわけで、牛臥寮へ一人籠った次第。

あまり人へ話したことの無い、とりとめの無い
つまらぬ話です。

長々と、失礼しました。

会が盛況でありますように

水とのたわむれ

昭和二十九年卒 小林 紳也

今年80歳になりました。この歳になっても「黒潮」に寄稿できるのを大変嬉しく思います。今年書き易くとの配慮からアンケート式も取り入れて下さいました。このアンケート方式をちょっと拡張させていただいて、「水とのたわむれ」として、これまでの水に関する思い出を綴らせていただきます。半ば自己紹介っぽくなって恐縮ですが、主にこれまで書いたことの無いことを中心に書きますのでご容赦願います。

・水とのなれ初めは如何に

昭和11年(1936年)に樺太(現ロシア領)で生まれました。父の職場の移動、戦時中もあって、その後日本各地を転々と移転しました。国民学校(小学校)だけで7回転校しました。ギネスブックものです。

樺太(豊原市、泊居町・1936/1~1944/2)では我が家の丘側の小川でヤマメかイワナがいくらかでも釣れたのを憶えています。

東京の駒沢に住み(1944/3~1945/3)艦載機の超低空射撃を体験する傍ら、二つ上の兄と一緒に二子多摩川まで水遊びにでかけ、深みにはまって溺れかかります。幸い大人の方々が助けて下さいました。3月10日東京大空襲の3日後には上野を後に北海道に疎開します。これには在郷軍人でもあった父が旭川師団に招集されたという事情もありました。

北海道(苫前町・1945/3~1945/7)ここは母の里で、日本海側の小漁村でした。やん衆(にしん漁用の季節労働者)の操船する船に乗せてもらってにしん漁を体験しました。にしん漁が終わると遠浅の岩礁に腰まで浸かって雲丹採りをしました。浜で焼いて食べる採りたての雲丹はそれは美味しいのです。海で遊んだのはこれが初めてでした。

旭川(1945/7~1945/9)、先に赴任していた父のもとで終戦を迎えます。偕行舎(師団のクラブハウス)の林に囲まれた広い池で、終戦前はこっそり鯉釣りを楽しんでいましたが、終戦になったとたんに、規律も何も無くなって、町の方々が池に投網をいれはじめ、酸欠になった何匹もの鯉が可哀想に夜中の内に岸边に跳ね上がっていました。あまり嬉しくない水の思い出でした。

小樽(1945/9~1945/12)を経て、宮崎県の片田舎に移転します。

宮崎県の片田舎（現在の日南市・1945/12～1951/1）ここは気候温暖、山紫水明の地でした。戦後のこととて、ここでも食料事情は悪かったのですが、山に川に遊ぶのには事欠きませんでした。ここでは4月1日になると悪童たちは川で泳ぎ始めます。私も行った早々の1946年からこの慣習に馴染むようになりました。泳ぐと言っても半分は潜って川海老や魚を採るのです。川幅20～30mぐらいの川ですが、瀬もあり淵もあります。1946年から1950年まで5シーズンの間4月から11月までもう毎日と言って良いほど潜りますから、どこの淵にはどういう魚がいるか魚の生態もわかるようになりました。馴れてきてからは時には日南海岸の磯でも潜りました。さざえや伊勢海老が採れるのです。潜る為に泳ぐのですが、いつの間にかどんな流れのところでも、どんな波の所でも泳げるようになっていました。

・高校時代の水とのたわむれは？

勧誘されて水泳部に入りました。プールで泳ぐのはこれが初めてでした。泳いでプールから上がる時、目の前がうっすらと緑がかっているのには閉口しましたが、これでも誰も身体や眼を悪くする人が出なかったのは、消毒はきちんとされていたからかと思います。寒い時には風呂で暖をとるのが楽しみでした。1年次は泳ぐこと専門で、それまでは自己流だったのが指導を受けてタイムが良くなる事に楽しみを見いだしました。2年次は競泳と水球の両方に励みました。私の入学した当時は旧制尋常科から入られた方々が2年上にいらっしゃいましたから水球は関東地区で強豪校だったのです。泳ぎながら大きな球を投げることに大いに楽しみを憶えました。3年次はほとんど練習しなかったのに水球の試合（関東6校）にだけは出場しました。成蹊プールは井戸水で都立のプールと比べて格段に冷たかったのです。

・高校卒業後（大学時代）には何をなされていきましたか

浪人した後、早大に入学し、建築を専攻しました。卒業後は、設計事務所（日建設計）に入社し、以降2000年まで約40年間、設計業務に従事しました。運動面では、早大の運動部に入るほどの時間も能力もなく、日常はもっぱら遊びでサッカー、野球などに興じました。その中で、体育授業（季節スポーツ）でヨットを操れるようになったこと、理工学部の競漕大会（ナックルフォア）で山仲間5人で出場したチームが準優勝したことが、水との縁がある事柄でした。山を登るようになった（トレッキング程度）のも大学1年次からでした。奥日光を最初として、立山、谷川岳、槍ヶ岳、大雪山など、登山の楽しみを覚えました。大雪山から石狩岳への縦走路で雪解けの池塘（直径30mほどの浅い池）を横切っているところがありました。夏休みのことでもあり、私には山で水を得たと言う感じで元気を取り戻す効果がありました。山登りは社会人になってからも続け、75歳で白山に登ったのを最後に百名山中40余の頂きに立つことが出来ました。

・高校卒業後はコーチをされましたか

大学1年次に1シーズンだけ、川崎康祐ヘッドコーチのもとで補佐役を務めました。理論的に泳法をどうこうすると言うよりは、ひたすら「泳げ、泳げ」のコーチだったかと思います。

・水泳部時代での一番の思い出

2年次の黒潮会総会で200mフリーを泳ぎました。当時のコーチの鈴木治先輩が伴泳して下さいました。当初は並んでいたのですが、その内に小生の方がリードするようになり、ゴールインした時は2:40:00でした。思いがけないことでもあり、喜びでした。プールから上がった後

に伊丹会長から二言、三言アドバイスをいただいたのも嬉しい思い出です。もう一つ、1年次か2年次か定かではありませんが、都の国体予選に出場しました。当初から記録は問題外で参加することに意義ありでしたが、出場直前に控え室で重宗先輩（1年次であれば主将、2年次であれば先輩として）が小生の足、腿を揉んでくださいました。大変恐縮した思い出です、沼津の牛臥寮も先輩ともどもに夜光虫の光る海で泳いだり、潮流に逆らって舟を漕ぎ出したのが懐かしい思い出です。

・今の部員に伝えたいこと

練習は時には苦しいものです。がこの苦しい練習に耐えることで、頑張る力を身につけることができるような気がします。喜びが生まれてきます。これが後々社会人になっても、能力以上のことに挑戦していく源になるのではないかと思います。

黒潮会ほど同時代の方々に合せて、多くの年代の方々と知己になれるのもめったに無いことです。これが社会人になっても、あるいは今でも大いに力になってくれます。大切にしましょう。

・黒潮会に対するご意見・ご希望をお聞かせください

現在の黒潮会は大いに活性化しています。これまでに関わられた会長以下の諸氏に敬意を表します。また、黒潮アーカイブスは素晴らしい。これまでのものに仕上げてくださいました方々に感謝です。私は13/14号当時の在校生です。黒潮には3~4回投稿した記憶があります。また後年には古い号を閲覧する機会に恵まれて、この中に、創立時代からの、水泳部の歴史が刻まれているのを知りました。号ごとに、その当時の社会、学制、プールの状況、記録などが記されていますから、是非一読されることをお勧めします。